

私立大学図書館協会 2016 年度第 4 回国際図書館協力委員会議事要録

日 時： 2016 年 10 月 25 日（火）14：00～17：00
場 所： 東洋大学（白山キャンパス）9 号館 2 階 第 4 会議室
出席者： 工藤晶子（学習院大学）， 坐間礼子（桜美林大学），
中島操（同志社大学）， 渡辺英二（中京大学），
井口紀子（福岡大学）， 館田鶴子（委員長・慶應義塾大学）
会長校： 千葉信一， 布施賢治（東洋大学）
事務局： 吉沢亜季子（慶應義塾大学）
配布資料：

1. 2016 年度第 1 回国際図書館協力委員会議事要録
2. 2016 年度第 1 回東西合同役員会
3. 第 77 回総会・研究大会（海外招聘）報告関連
4. 寄贈資料搬送事業
5. 海外派遣研修
6. 海外認定研修（A， B）案内
7. 海外認定研修（B）実施関連
8. 国際図書館協力委員会業務の効率化メモ
9. 寄贈資料搬送事業の採択について（国際大学）
10. 国際図書館協力基金への支援依頼
11. 委員会委員選出ローテーションについて
12. 事業費出納帳
13. 国際図書館協力委員会スケジュール

議事：

会議に先立ち、2016 年度第 1 回国際図書館協力委員会議事要録の確認があった。
（資料 1）

報告事項：

1. 2016 年度第 1 回東西合同役員会報告（資料 2）

8 月 24 日に上智大学四谷キャンパスで開催された第 1 回東西合同役員会にて、当委員会から「2016 年 4 月から 7 月末までの活動について」を報告した。特記事項としては、今期に新設した海外認定研修（B）を実施したことが挙げられる。また、従来の国際図書館協力シンポジウムに代わるものとして、26 日に開催される私立大学図書館協会研究大会において、海外からの招聘による講演会を行うことを周知した。

2. 第 77 回総会・研究大会報告（資料 3）

8 月 25 日に上智大学四谷キャンパスにて行われた総会で、当委員会から提出した報告事項の確認と説明を行った。8 月 26 日の研究大会では、以下の通り、海外派遣研修の成果報告と米国の日本研究司書の招待講演を行った。

9:30-10:00 2015 年度海外派遣研修(モーテンソンプログラム)報告
早稲田大学図書館利用者支援課 藤順一氏

10:50-12:00 講演会

マルラ俊江 (Librarian for Japanese Collection, C.V. Starr
East Asian Library, University of California, Berkeley)

演題： 日本研究司書の仕事 - カリフォルニア大学を事例として

初めての試みとなった招待講演は、企画の段階から当番校と連携して実現に至った。委員会の仕事においては、会場の手配や広報等の事務的な業務が軽減され、これまで課題となっていた集客、費用の面でも効果があった。講演の内容はメインテーマ（「大学図書館運営を考える：今求められる図書館員の資質をキーワードとして」）に沿うもので、会場からの活発な質問もあり好評であった。また、講演後の昼休憩時には、別室にて招聘者と委員会メンバーとの懇談会を開催し意見交換を行った。経費については、交通費、宿泊費、謝礼金を支出した。宿泊については会長校と相談し、前例に倣って 3 泊分を支出した。（4 泊目は個人での支払いとした。）

3. 2016年度各事業進捗状況

(1) 寄贈資料搬送事業（資料4）

2016年度第1回は国際大学、大妻女子大学、杏林大学、慶應義塾大学からの応募があり、支払は完了している。4大学で409,240円であった。2015年11月に、ラトビア国立図書館 East Asia Research Section から日本の文化、民俗、歴史に関する図書の受贈希望が寄せられたことから、2016年度はラトビア国立図書館への寄贈について別紙詳細を付けて寄贈資料搬送募集を行った。これについて、慶應義塾大学湘南藤沢メディアセンターがラトビアとの調整により、6箱の搬送を実施するに至った。次に、第2回の募集締切りは2016年11月30日で、現在、国際大学から申請がきている（審議事項.1）。

(2) 海外派遣研修（資料5）

2017年度の募集（8月23日付け文書、10月31日締切り）を実施した。現在のところ申請はない。昨年同様に申請がない場合は再募集を行う。

・日程：2017年5月24日～6月20日

（その後、ALA年次総会に参加可能。6月22日～27日、シカゴ）

→会議後の確認：神奈川大学より申請があった。11月14日に面接を予定。

(3) 海外認定研修（資料6, 7）

A：2016年度の募集（3月14日付け文書、一次締切り10月31日、二次締切り2016年2月28日）を実施中であるが、現在のところ申請はない。

B：ALA・米国図書館研修（図書館総合展運営委員会企画）報告

研修日程：2016年6月21日（火）～28日（火）

申請者：五十嵐孝子（国際基督教大学図書館）、涌井絵未奈（中央大学図書館）、櫻井真理子（明治大学図書館）

申請者3名より報告書が提出され（8/31）、補助額（各20万円）は振込み済み。帰国後、委員会で作成したアンケートを行った。主な内容は以下の通り。

- ・ 今回の研修に対して、好意的な職場の理解があった。
- ・ ALAへの参加はもちろんのこと、各機関での見学と意見交換が良かった。
- ・ 研修の機会に沢山のことを学びたいがために、過密な行程となった。
- ・ 英語力はあるに越したことはないが、通訳もいるので理解に問題はない。
- ・ 研修費用約40万円の半額、20万円の補助に伴い、研修の機会を得た。
- ・ 帰国後は、職場での報告や今後の業務に役立てることを期待されている。この研修企画を継続、さらには発展させるべく、3名から提出された詳細な報告書とアンケート結果を基に、海外認定研修（B）とすることが適当なのかという点も含めて、今後も多角的な視点での検討が必要である。

4. 今期の委員会業務効率化について（資料8）

今期の課題として取り組んできた委員会業務の合理化、効率化について、表にまとめ確認した。大きくは以下の2点があげられる。

- ・ 国際図書館協力シンポジウムを私立大学図書館協会研究大会へ移行
- ・ 海外集合研修を廃止し海外認定研修（B）を新設

それにより、会議開催（委員参集）の回数は年平均5回から3回となった。

審議事項：

1. 寄贈資料搬送事業 後期 締切日前の審査・採択決定（資料9）

これまでに1件の申請があり、締切日前であるが会議の場で事前の審査を行った。特に問題はないことを確認し、採択することを決定した。今後の申請については、締切日後にメール審議を行う。採択校へは、全ての審議後に結果を通知する。

国際大学：今回申請のあったザンビア大学へは、前回に続き3回目となる。

（200冊10箱，見積額 ¥62,500）

また、これまでの採択の経緯を振り返り、以下の意見があった。
現在は「寄贈資料搬送事業実施要領」に基づき、寄贈図書リストの内容を確認して委員会で審議を行っている。そもそも、寄贈資料は大学図書館蔵書の除籍資料であるため内容的にも一定のコレクションであるはずで「寄贈の受け手、送り手双方の了解済みという前提」があれば、内容の審査は必要ないのではないか。
実施要領の簡素化等の検討を、次期委員会へ申し送りを行う。

2. 国際図書館協力基金への支援依頼（資料10）

2015年度第1回東西合同役員会で、特別会計の事業支援費や繰越金があることから企業への支援依頼の中止を提案したが、実施事業との関係や寄付企業側の事情（既に予算計上されている等）で継続を前提に委員会へ持ち帰ることとなった。審議の結果、引き続き支援依頼を行うこととなり2015年度には8社、合計65万円の入金があった。これまで同様に基金による実施事業もあることから、2016年度も支援依頼を行うこととした。前回依頼した機関のうち入金がなかった6社についても継続して支援依頼を行う。キャリアパワー、丸善雄松堂、紀伊國屋書店については、例年通り、会長校から他の支援依頼と同時期に送付する。

3. 委員会委員選出ローテーションについて（資料11）

委員長より、当委員会の委員・委員長校ローテーションについて、過去の経緯と問題点の確認があった。（2015年第2回会議での配布資料と一部重複）それを踏まえ、2019年度以降の東地区のローテーションについて、検討案が示された。案は会長校、東地区部会長校、慶應義塾大学関係者間で事前に協議したものである。これを基に委員会で議論して委員会提案書を作成し、12月2日に開催される2016年度第2回常任幹事会へ提出したいとの説明があった。意見交換の結果を組み入れ、委員長が委員会案を作成する。（2017-2018年度の委員は2012年3月付け申し合わせの通り）

委員会案を作成する上での意見（東地区からの3枠について）：

- ・現在のローテーションでは、東地区部会長校が1枠、東地区研究部理事校が1枠、一校ずつ委員となっている。役員校負担を軽減するため2枠を1枠へ変更する。
- ・東地区の委員長はほぼ早慶ローテーション枠から担うことになっており、現行の申し合わせによるローテーションからは必ず慶應が当たることとなる（2年ごと）。委員会活動の活性化、効率化のためにも委員長校を固定しないようにする。
- ・以上から、役員校枠を一つにした上で、新たな大学グループ（3～4大学）の枠を新設し、委員長のローテーションにもあたるようにしたい。

その他：

1. 英文ホームページの更新について

前回の委員会で更新の検討があったが、今期の事業は試行的な位置づけであるため文面の改訂は行わないこととする。

2. 国際図書館協力委員会「事業費」執行状況（資料12）

2016年度海外認定研修(B)と研究大会関連の費用を支出し、現在の残金は利息を含み1,100,778円である。国際図書館協力特別会計（事業費）の中間決算（及び決算報告書）会計処理について、会長校より11月10日締め、11月17日提出との連絡を受けている。

3. 今後のスケジュールについて（資料13）

次回の会議は2月下旬頃を候補日として、慶應義塾大学信濃町（予定）にて行う。

以上